

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
11097	3・4	後期・前期	必修	5	225
授業科目名 (英文)	老年・在宅看護学実習 (Clinical Training of Gerontological Nursing and Home Care Nursing)				
担当教員名	○阿部桃子／大金ひろみ／蓮井貴子／山之井麻衣／伊東真理				
授業の概要及び到達目標					
<p>概要：</p> <p>本科目では、さまざまな健康課題を抱えながら、暮らしの場で療養している子どもから高齢者とその家族への看護実践を通して、暮らしや生き方を尊重した看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度、在宅看護及び高齢者看護のあり方について学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 健康課題を抱えて在宅および高齢者ケア施設で生活する人とその家族の特性について説明できる。 ② 在宅および高齢者ケア施設で生活する人とその家族の暮らしや生き方を尊重した健康生活を援助する方法について説明できる。 ③ 在宅および高齢者ケア施設で生活する人とその家族の健康生活を支援する保健医療福祉体制や連携協働の実際から、看護の役割について説明できる。 ④ 在宅および高齢者ケア施設で生活する人とその家族への看護実践を通して、在宅看護及び高齢者看護の課題と自己課題を明らかにできる。 ⑤ ①～④を通じて、在宅看護および高齢者看護に対する自己の見方、考え方を考察できる。 					
準備学習等					
<ul style="list-style-type: none"> ・「老年・在宅看護学実習要項」を熟読し、本科目の目的と目標、方法を十分理解した上で、実習に臨む。 ・実習の2日目に、生活の場での対象理解と生活機能支援に必要な技術・態度について学習する。自らの課題を意識しながら学習できるよう準備して臨む。 <p><老年看護学実習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学習として、当該実習で使用する資料の作成、フィールドワーク等を事前課題として提示する。詳細は、実習オリエンテーションで説明する。 ・実習施設での実習期間中は、毎日、学習状況に関するフィードバックを行うので、予習・復習に活かすこと。第一週最終日は、次週の実習について教員と打ち合わせを行う。事前に質問事項をまとめておく。 <p><在宅看護学実習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護援助論Ⅰ、在宅看護援助論Ⅱ、終末期看護援助論、体の仕組みと働きⅠ、体の仕組みと働きⅡ、病態生理学、病態治療論Ⅰ～Ⅲを復習して臨むこと。 ・臨地で関わる頻度が高い疾患の病態及び基礎看護技術について事前学習の課題を提示するので、予習・復習をしておくこと。 					
成績評価の方法	実習目標の達成度、学習への取り組み状況について、老年看護学実習(45%)、在宅看護学実習(45%)、統合カンファレンス(5%)、実習レポート(5%)で評価する。				

テキスト	なし
参考図書	<p><老年看護学実習> 『老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは』改訂第2版（正木治恵、真田弘美編：南江堂）※ 『老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する』改訂第2版（真田弘美、正木治恵編：南江堂）※ 「高齢者の生活機能再獲得のためのプロトコール」（中島紀恵子他監修：日本看護協会出版会）※ 「新しい介護」（大田仁史監修：講談社）※ 「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015」（日本老年医学会編：メジカルビュー社）※ 「生活環境整備のための“福祉用具”の使い方」（窪田静監修：日本看護協会出版会）※ 上記の他、実習中に紹介する。</p> <p><在宅看護実習> 実習ガイダンス及び実習中に紹介する。</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は「専門職の教育」のうち、「専門展開」に該当する科目である。卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連は、履修案内にある看護学科の履修系統図をあらかじめ確認しておく。 ・本科目を受講するにあたっては、老年看護援助論Ⅰ・Ⅱ、在宅看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位取得が前提条件である。 ・介護老人福祉施設等での実習は、腸内細菌検査が陰性であることが要件である。実習前の指定期間に腸内細菌検査を行い、検査結果を提出する。 ・実習初日と最終日での面談で、自己の課題を明確にして、主体的に学習に取り組む。 ・各教員のオフィスアワーは、履修案内にある看護学科「オフィスアワー」の項を参照ください。
授 業 計 画	
<p>実習期間は5週間（老年看護実習10日間、在宅看護実習10日間、老年・在宅合同演習5日間、計25日間）、2チームにわかれて学習する。実習記録は、実習最終日（25日目）に提出する。詳細は『老年・在宅看護学実習要項』を参照。</p> <p><老年看護学実習> 担当：阿部・山之井・伊東 都内の介護老人福祉施設等で行う（9.5日）。なお、実習開始前の指定された時間で、施設でオリエンテーションを受ける。その前後でフィールドワークを行う（0.5日）。</p> <p><在宅看護実習> 担当：大金・蓮井 品川区地区在宅介護支援センター、都内の訪問看護ステーション等で行う（10日間）。</p> <p><老年・在宅合同演習> 担当：全担当教員 実習全体および老年看護、在宅看護実習に関するオリエンテーション（1日）、実習開始前、終了時面談（1日）、生活の場での対象理解と生活機能支援に必要な技術・態度に関する演習（1日）、実習での学びの統合を目的とした演習（1.5日）を行う。</p>	